

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	New Step大阪吹田教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月1日	～	令和8年 3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58名	(回答者数) 30名
○従業者評価実施期間	令和7年 4月1日	～	令和8年 3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所のスペースが限られている特性を活かし、職員による見守り体制を強化するとともに、利用者一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな療育・支援を継続して提供しています。さらに、環境の工夫により安心して過ごせる空間づくりを推進し、支援の質の向上を図っています。	事業所内の活動において、見守りの死角を生じさせない体制づくりを徹底し、支援員の目が行き届く環境を維持しています。また、日頃から利用者との密な関わりを大切にすることで、小さな変化や兆候を早期に把握し、トラブルの未然防止に努めています。	課外活動においては、支援員の監督が十分に行き渡らない場面も想定し、企画の初期段階から多様なケースを見据えた準備を進めています。
2	利用者および保護者との丁寧かつ継続的なコミュニケーションを回り、信頼関係の構築に努めるとともに、必要に応じて相談支援事業所と連携し、個々の状況に応じた支援を提供しています。	保護者や利用者、学校などの関係機関から聞き取りを行った情報について、必要と思われるものについては相談支援事業所と情報の共有を行っています。職員間でも情報の共有を行い、療育に反映できるようにしています。	必要に応じて、事業所からの働きかけにより関係機関との情報共有の場を設けて、日常生活における困りごとなどについても対応出来るように、情報整理についても日頃から行うようにしています。
3	支援の質のさらなる向上を目指し、日々の業務の見直しを継続的に行うとともに、環境整備および職員研修の充実を図り、組織全体で支援力の強化に取り組んでいます。	各法令やガイドラインの内容を遵守し、職員の支援スキル向上を目的として、様々な研修を年間計画に沿って実施しています。また、事業所内の環境整備では、利用者が過ごしやすい空間を提供できるように努めています。	各種研修の成果を踏まえ、職員全体で事例検討の内容を共有し、その学びを日々の現場に活かせるよう体制を整えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室内の活動・静養・収納スペースが限られている。	指導訓練室と静養スペースがカーテンで区切られていますが、遊びの場としても解放しており静養室としては十分とも言えない部分もあります。運動器具の置き場としても活用している事から、スペースが限られています。	教室の構造上、どうしても難しい部分ではありますが活動に合わせて、空間を分ける等対応を行っており、状況に応じてレイアウトの変更も行っていきます。整理整頓を徹底しつつ、事業所内の環境を継続的に見直し、利用状況の変化にも迅速に対応できる体制を整えていきます。
2	保護者からの意見の汲み取りが不十分な面がある。	保護者会を開催しましたが、仕事や家庭の都合等により、参加を希望していても出席が難しい保護者がありました。不参加となった保護者の意見を補完する仕組み（事前アンケートや後日の意見収集など）が十分でなかった点は改善したいと考えています。	保護者会で寄せられた相談から、多様な悩みを抱え、それを共有・解決したいというニーズがあることが分かりました。今後は開催を重ねながら、保護者同士が安心して意見交換できる環境づくりを進めていきます。
3	保護者、児童についての情報共有がリアルタイムでなされていない。	送迎手と教室で待機している職員との情報共有にタイムラグが発生する事があり、一時的に保護者とのやり取りに齟齬が発生してしまうことがある。	物事の優先順位をつけながら業務に当たる事で、適切に連絡ツールを用いて、なるべく外部とのやり取りでの齟齬が生じないように対応していきます。優先順位をつけるうえでの指針を教室内で共有し、その場その場で適切な判断が行えるよう対応を行っていきます。